「かえるの学校」慶寿園を訪問
世代をこえて交流深めたひととき

サマースクール「かえるの学校」の児童43人が8月1日に特別養護老人ホーム慶寿園を訪問し、お年寄りと親睦を深めました。これは夏休みの期間中に保護者が留守になる家庭の児童を預かる、社会福祉協議会主催事業の一環。この日のために手作りした首飾りと、練習した歌をプレゼントした子どもたちは、喜ぶお年寄りたちと一緒に顔をほころばせていました。

↑「いつまでもお元気でいてくださいね」と、お年寄りと握手を交わす子どもたち。

↓役場本庁1階の住民課窓口に義援金募金箱を設置する嶋野町長㊧と渡邉議長。

町内施設に広島市豪雨災害義援金募金箱を設置
土砂災害を経験した自治体として

8月20日に発生した広島市の大規模土砂災害。その被災者を支援するため、8月22日に「広島市豪雨災害義援金募金箱」を役場本庁、支所、公民館に設置しました。平成21年7月に土砂災害を経験した福智町としても何か協力したいと、町と議会が設置を提案。義援金は各募金箱、または役場総務課窓口で受け付けていますので、みなさんのご協力をお願いします。

↓平和学習で訪れた「ひめゆりの塔」の慰霊碑前で、ひめゆり学徒隊についての説明に耳を傾ける参加者。

平和学習「少年の翼」
沖縄で学び感じた平和の尊さ

平和学習「少年の翼」が7月26日から2泊3日の日程で行われ、町内の小学5～6年生22人が参加しました。この交流事業は旧方城町と沖縄県中城村の地名にどちらも「城」がつく縁で始まり、町からの訪問は今回で20回目を迎えました。参加者たちは初日と2日目に世界遺産の首里城や中城城跡、美ら海水族館などで沖縄の文化や自然を体感し、中城村でホームステイ。最終日には平和祈念公園やひめゆりの塔などの戦没者慰霊地で沖縄戦の悲惨さを目の当たりにし、平和と命の尊さを胸に刻んでいました。

中学生職場体験学習
仕事を通じて自分の将来と向き合う

生徒たちの社会や仕事、将来の夢への関心を高めるため、町内3つの中学校が夏休み期間中に職場体験を実施しました。参加した中学2年生209人は、老人ホームやコンビニなど町内外40の事業所でさまざまな職種を体験。1～4日間をかけて学んだこの体験は、仕事の厳しさや楽しさ、大切さを知ると共に、自分の進路を考えるよいきっかけになったようでした。

↑中央保育所での職場体験で、粘土遊びを通じて保育を体験する方城中の生徒。

↓新聞をグループで回し読みして、気になる記事を集めて作る「まわしよみ新聞」。

福智町としょかん友の会「まわしよみ新聞」
視野が広がる、新しい新聞の楽しみかた

としょかん友の会と西日本新聞社共催の「まわしよみ新聞」が8月19日に中央公民館で開催され、17人がオリジナルの新聞作りを体験しました。参加者は4つのグループに分かれて気になった記事を切り貼りし、意見を交わしながらA2サイズの壁新聞を制作。参加者は「一人で新聞を読むより、他の人の考えかたが分かって面白い」と、新聞の魅力を再発見していました。

生力地区によるペットボトルキャップ寄贈
世界に届け、地域の善意32,672個

生力ニュータウン子ども育成会が、地元で集めたペットボトルキャップを市場小へ寄贈しました。市場小ではキャップを回収して世界の子どもたちにワクチンを届ける「キャップリサイクル大作戦」を行っており、その活動に生力では地区をあげて協力。今年はポリオワクチン約38人分となる32,672個が集まり、8月6日に環境ボランティア委員会に手渡されました。

↑約170世帯の善意を寄贈した生力地区の住民たちと、市場小児童会のメンバー。

↓全国大会での勝利に向けて、チームメートたちと日々猛練習に励む古屋愛さん。

古屋愛さん陸上全国大会へ出場
頂への思いバトンに込めて全力ダッシュ

近畿大学附属福岡高校1年生の古屋愛さん（神崎）が所属する陸上競技部が、4×400㍍リレーで県大会、九州大会を勝ち抜き、8月2日に山梨県で行われた全国大会に出場しました。全国大会では惜しくも決勝進出を逃したものの、古屋さんは「来年も全国大会に出場し、準決勝、決勝と勝ち抜いて優勝を目指します」と、今後のさらなる活躍に意欲を燃やしていました。